

## 専攻科福祉専攻(介護福祉士養成課程)への思い

### 「卒業してからの私」

私は、専攻科福祉専攻 1 回生の今泉真理子です。

“赤ちゃんから高齢者・障がいをもつ人へ、やさしい人になりませんか？”  
当時、幼児教育・保育科に所属していた大林先生からのゼミ生募集プリントに引き寄せられるように大林ゼミに入ったことから始まりました。

「もっと福祉について学びたい」と思い、大林先生と専攻科福祉専攻開設と同時に進学。

大林先生をはじめとする先生方の熱意溢れる講義、年齢もキャリアも異なる幅広い年齢層の同級生との学び、介護現場での学びがありました。

専攻科で過ごした日々は、人生の中で1年という短い時間でしたが、私にとって大変貴重な時間となり20年経った今でも鮮明に覚えています。

卒業後、福祉施設にて従事していましたが、医療の知識と技術を学びたいと思い、看護大学へ進学しました。看護学生時代、小児・母性看護では幼児教育・保育科で学んだこと、老年・精神・在宅・地域看護では専攻科で学んだこと、全ての点と点が線で繋がるように、どの学びも私にとって必要であり、学ぶ順序も必然であったと思います。

20年間看護職として介護福祉士の養成施設に関わってこられた大林先生は、“生活や人生に出会うことのできる医療が大事。福祉職は人間の潜在的な力を引き出しながら生活と人生の質を向上させることができる”と仰っていました。

保育と介護と看護を学んだ専門職として“子どもから高齢者の発達支援”は、健康のどの段階においても必要であると思います。

医療は病気を治すことを第一優先に考えがちですが、“disease(疾病)”をもつ“patient(患者)”という視点から捉えていくべきだと思います。

非常勤講師として専攻科の学生さんと関わる貴重な時間もいただき、大変感謝しております。

仕事で壁にぶつかった時、初心に戻りたくなる時、大林先生に会いたくなった時、大林先生の研究室を訪ねていました。

専攻科が閉科になるということは、私にとって大好きで大切な居場所がなくなってしまう気がして大変寂しいですが、専攻科福祉専攻で学んだことを糧に今後も私らしく地域貢献できるよう日々、精進して参ります。

また今後は、福祉の里のなかで皆さんと交流をさせていただきながら新たな居場所づくりが出来たら…とっております。

皆さんとまたお会いできる日を楽しみにしております。

ありがとうございました。

2022年3月

1 回生 今泉真理子